

なし黒星病菌の越冬量が多くなる予想

～ 落葉処理と落葉期防除を実施してください ～

1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

本年のなし黒星病の発生状況は、8月に入り発生が増加し、9月中～下旬の巡回調査における新梢葉の発病葉率は0.55%（平年0.20%）、発生地点率は54.6%（平年25.2%）でいずれも高かった（図-1、2）。

以上のことから、今後翌年の一次伝染源である秋型病斑（罹病葉：図-3）及び芽りん片病斑が増加する可能性があるため、防除対策を実施する必要がある。

2. 防除対策

1) 落葉処理

①秋型病斑による越冬量を減らすため、積雪前に園内の落葉を集め土中深く埋めるか焼却する。

2) 落葉期防除

①芽りん片病斑は翌年に果そう基部の病斑（図-4）となり、葉や果実への二次伝染源となる。芽りん片への感染を予防するため、表-1から薬剤を選択し、落葉期（落葉始めから80%程度落葉頃まで）に1～2回散布する。

②散布液量は300L/10aを目安とし、スピードスプレーヤーで防除する場合は、1列おきではなく全列を走行し、かつ低速で丁寧に散布する。

③EBI剤、QoI剤及びSDHI剤は、耐性菌出現回避のため落葉期防除には使用しない。

④収穫終了後に薬剤防除を行った場合、次作の薬剤使用回数としてカウントされるため注意する。

3. 資料

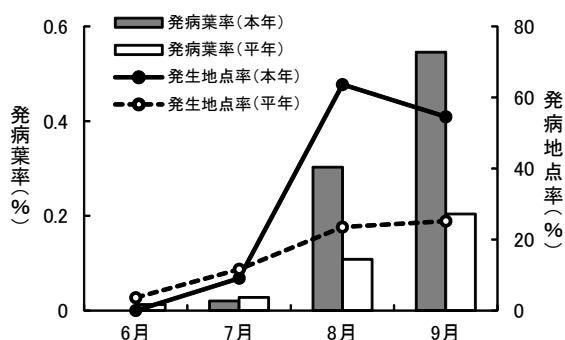


図-1 本年のなし黒星病発生の推移（新梢葉）

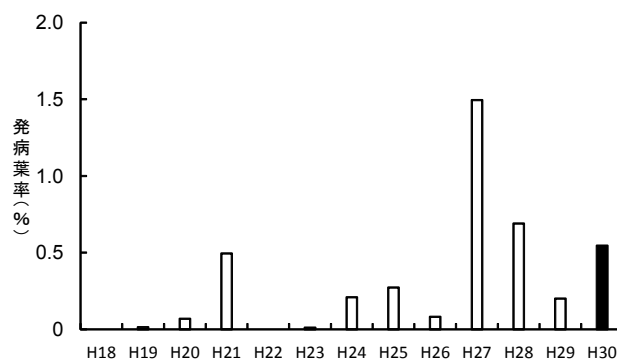


図-2 なし黒星病の発病葉率の年次推移
（新梢葉：9月上～中旬）

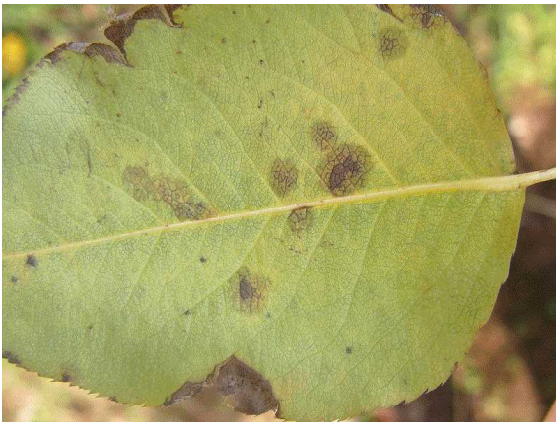


図-3 秋型病斑



図-4 果そう基部の病斑

表-1 なし黒星病の落葉期の防除薬剤

分類	農薬名	希釈倍数	使用回数	各成分の総使用回数
B	チオノックフロアブル	500倍	5回以内	ア
B	トレノックスフロアブル	500倍	5回以内	ア
A・D	オキシラン水和剤	600倍	9回以内	イウ
D	オーソサイド水和剤80	800倍	9回以内	イ
W	デランフロアブル	1,000倍	4回以内	5回以内

A：銅剤 B：有機硫黄剤 D：ポリハロアルキルチオ剤 W：その他の殺菌剤

ア：チウラム（5回以内（休眠期は1回以内）） イ：キャプタン（9回以内）

ウ：有機銅（12回以内（塗布は3回以内、散布は9回以内））

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所	TEL	018-881-3660
秋田県果樹試験場	TEL	0182-25-4224
かづの果樹センター	TEL	0186-25-3231
天王分場班	TEL	018-878-2251
掲載HP https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/		